

専 門 教 養
令和 4 年 7 月
60分

受 験 教 科 等
特別支援学校中・高 国 語

## 注 意

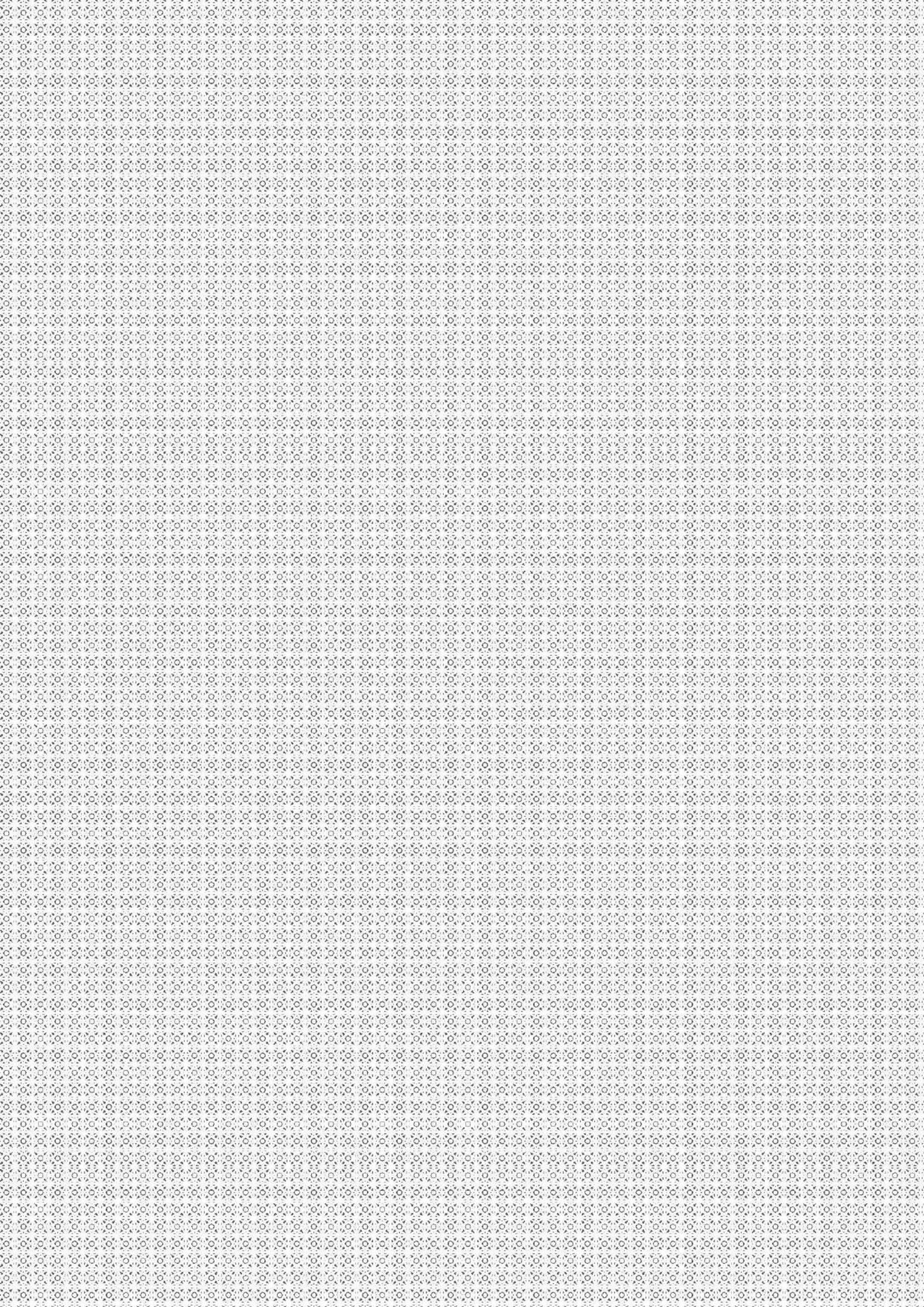
- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 他の受験者の迷惑になるような行為、スマートフォン等の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、26ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に、必要事項が正しく記入・マークされていない場合には、解答は全て無効となります。解答用紙の【1】の欄には、受験番号を記入し、受験番号に対応する数字をマークしてください。【2】の欄には、氏名を記入してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは不要です。
- 8 この問題は、教科等に関する問題 一 ~ 四、特別支援教育の専門に関する問題 I ~ IV の各問題から構成されています。
- 9 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 10 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年、平成30年又は平成31年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 11 問題の内容についての質問には一切応じません。

## 解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。各問に対して、正答は一つだけです。各解答欄に二つ以上マークした場合は誤りとします。
- 2 「解答番号は  。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例）のように解答番号  の解答欄の③にマークしてください。

(例)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="1"/>	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖



## 教科等に関する問題

一

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

---

(森田真生『計算する生命』による)

問1 傍線部(ア)・(イ)のカタカナを漢字に直したとき、その漢字と組み合

わせて二字熟語になるものは、次の各群の1～4のうちのとれか。

解答番号は(ア)が 、(イ)が 。

(ア) ボウダイ

1 満  
2 拳  
3 解  
4 略

(イ) カクゼン

1 世  
2 悟  
3 新  
4 企

問2 傍線部(1)

「とあるが、その理由として最も

適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 3。

- 1 生命の本質は自律的なものであつて外界からの情報が表象を生み出し、出力ができるとされているが、研究の当初から揺るがず今でもそう考えられているから。
- 2 人工知能の探究が進み、人間を超える計算機能を有するようになったが、最先端の技術であつても動機を外部から与えられる点  
は生命には及ばず、自動的な機械の域を出ていないから。
- 3 現在では生命が外部を認知する時に、行為する動機を生み出すと考えられているが、研究の初期は外部からの情報の入力  
が表象を生み出すと考えられていたから。
- 4 認知主体を認知主体の外部から観察する特殊な視点は、認知主体の外部と内部に世界を分ける発想を生み、生命は自律的なシステムであるというそれまでの仮定を覆したから。

問3 傍線部(2)

「と

あるが、どういうことを説明したものととして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 4。

- 1 観察者が、他の生物の認知システムをありのままに捉えようとする時、生命の外部に本当の世界があるように見えるので、その生命が内的に表象するものを再現するために、「入力―情報処理―出力」の形式を仮定してきたということ。
- 2 観察者が、他の生物の認知システムを他律的なモデルに基づいて捉えようとしても、認知主体の立場からは存在しない客観的な世界を想定することになるため、他の生命が認識する世界を再現することはできないということ。
- 3 観察者が、他の生物の認知システムを解明しようとする時、物理的な刺激とこれに応答する神経系の活動の間には、対応関係が認められたことから、生物は自分と独立にある外界を再現しようとしているということ。
- 4 観察者が、他の生物の認知システムを理解しようとしても、外部からの刺激に対する神経活動のパターンは無数にあるため、生物がどのように外界を内的に表象しているのかは捉えようがないということ。

問4

XIII 段落の役割について説明したものと最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は **5**。

- 1 直前の段落で述べた主張を受けて、**XIII** 段落では、主張の一部について具体的に説明している。
- 2 直前の段落で提示された主張を受けて、**XIII** 段落で抽象的に言い換えて、問題点を指摘している。
- 3 直前の段落で述べた内容に基づいて、**XIII** 段落では仮説を立て、論を深化させようとしている。
- 4 直前の段落で整理された内容を踏まえて、**XIII** 段落では疑問点を提示し、論を展開をもたせている。

問5 傍線部(3)「

」とあるが、どういふことを説明したものと最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は **6**。

- 1 人間の知性を機械のようにしないためには、人工知能が人間を超える能力を持つものと恐れるのではなく、利用方法を考えるべきだが、人間は機械よりも上位の自律的な立場を維持するべきであり、それらが課題になってしまおうということ。
- 2 人工知能の技術は計算の域であり、表象を生み出す存在になってはいないので、それを生み出す人間を超えてはいないが、人間が自律的であることをやめたときに、計算をする他律的な生命になつてしまい、人工知能に近づいてしまうということ。
- 3 人工知能は他律的な域を脱していないが、近い将来に自律的な能力を身に付けるため、その時も人間は他律的な行動をするのではなく、人工知能を扱う立場を維持した上で、人工知能と共生する社会を構築することを考えていく必要があるということ。
- 4 人工知能の能力と人間の能力を近付ける可能性を探る中では、人間が計算機に近づいていく未来の危険性があることから、人工知能の計算能力を生かしながら、表象を反復することで思考するような自律性を持つシステムである人間の可能性を広げることが求められているということ。

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

「東京っ子のぼく」が自然豊かな信州の旧制高等学校の寮に入ってから数か月が経ち、夏の休暇も終わりを迎え、もうすぐ秋の日が訪れる時季になっていた。

その数か月間、ぼくは「全人格をひとつの靴に捧げている」隣の部屋の「加島君」をはじめとする様々な人間と出会い、東京にいる頃には知らなかった様々なことを経験し、「自然」や「人間」について思索を深めるようになっていった。



---

問1 傍線部(1)

「とあるが、「ぼく」が

このように考えた理由を説明したものと最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 7。

- 1 ひとりきりで険しい山々に登ることの危険性について加島君が親身になって説いてくれたのにもかかわらず、ぼくがその忠告を聞こうとしなかったことを反省したから。
- 2 全人格をひとつの靴に捧げているだけの加島君のことを軽蔑しそうになったけれども、加島君のことも含めて「人間」のことを深く考えてみるべきだと思い直したから。
- 3 靴のことに専心していてぼくのことなど大して気にしていない加島君の軽々しい言い方に反発心をおぼえる一方で、季節はずれの山には熊がでるといふ助言には一理あると考えたから。
- 4 不安を感じていたぼくに熊が出ると脅かした加島君に言い返したくなっただけでも、自分がそのような感情に流されずに無垢な状態でいる必要性をあらためて感じたから。

(北杜夫『少年』による)

問2 傍線部(2)

「とあるが、このときの「ぼく」の気持ちを説明したものと最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 8。

- 1 頂上に到達し達成感で満たされてはいるが、燕山荘から出発してしまったことを後悔している。
- 2 必要にせまられて山頂に到達したが、時間的余裕のない状態になり、寂しさを感じている。
- 3 雪渓をさがしに山頂に行き着いたが、泊まる場所が決まっていない状況は変わらず、途方に暮れている。
- 4 ひとりで頂上に立ち太陽の光を浴びて満足していたが、その光が弱まり孤独感が強まっている。

問3 傍線部(3)

「とあるが、この一文で始まる段落中の表現について説明したものと最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 9。

- 1 「――」を二度使用し、さらには擬人法、反語法、倒置法などを使用することで、恐怖心が強まっていく「ぼく」の心情を効果的に表現している。
- 2 「――」を二度使用し、さらには擬人法、反語法、対句法などを使用することで、恐怖心が強まっていく「ぼく」の心情を効果的に表現している。
- 3 「――」を二度使用し、さらには擬人法、詠嘆法、倒置法などを使用することで、恐怖心が強まっていく「ぼく」の心情を効果的に表現している。
- 4 「――」を二度使用し、さらには擬人法、詠嘆法、対句法などを使用することで、恐怖心が強まっていく「ぼく」の心情を効果的に表現している。

問4 傍線部(4)

「とあるが、このときの「ぼく」の気持ちを説明したものと最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は10。

- 1 視線を上に向けてることなく作業をせわしく続けていた間、空っぽに星が広がり月光が地に届くようになり、自分の生きている世界が変わってしまったと思うほどの景観に驚き強く感動している。
- 2 頂きに立っているときは雪溪にたどり着けるか分からなかったが、わずかな時間で雪溪にたどり着き石油罐に雪を詰めることができたことで、神話の神が恵みを与えてくれたかのような気分になっている。
- 3 視界を遮り、山の姿をかき消してしまうほど濃かった霧がわずかな時間のうちに晴れ、それまでは畏怖する対象であった自然に對して美しきを見出すことができたため、心の中が安堵で満たされている。
- 4 夜空の霧が晴れて数多くの星座が見出せるようになったことから、自分が入寮してからずっと分からなかった問題の答えが明確になったような気分になり、人間の世界で生きていけるといふ自信をもち始めている。

問5 傍線部(5)

「とあるが、このときの「ぼく」の気持ちについて説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は11。

- 1 「ぼく」は地獄のような別世界が星空に広がっているように感じていたが、落石の音をきっかけに、自分のいる大地も別世界の一部であるかのように感じるようになった。
- 2 「ぼく」は大景観に心を奪われて下界にいてという意識を全く失っていたが、下界の音を聞いて我に返り、自分が下界の中にあるという意識がよみがえってきた。
- 3 「ぼく」は岩に腰かけながら神話世界の中にいるような感覚になっていたが、現実世界の音が聞こえ反響した後、すぐ近くにも神秘的な存在がいるかのように感じ始めた。
- 4 「ぼく」は濃霧が万物の根源であると思い人間と自然もはじめはひとつだったと考え始めていたが、自然の発する音に違和感をおぼえ、人間と自然とが対立するものだと考え直した。

三

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

---

(「藤簍冊子」「新日本古典文学体系」による)

問1 傍線部(1)

「」について解釈したものとして最も

適切なものは、次の1、4のうちではどれか。解答番号は **12**。

- 1 かつては都に花が咲いている様子を和歌にして贈答していたが、年をとるにつれ、和歌を詠むことも難しくなってしまったという事。
- 2 数年前まではどんなに寒くとも都近辺の雪の降る様子を見に出掛けたのだが、友人たちとも疎遠になってしまった今では、外に出ようとしなくなってしまったという事。
- 3 今は都から遠く離れて暮らしており、都を訪れることができないため、当時雪の降る様子を見に行かなかったことを後悔しているという事。
- 4 今でも雪が降るとその様子を見に出掛けたいという気持ちはあるのだが、年老いてしまった体では、なかなか出掛けることもできずにいるという事。

問2 傍線部(2)

「」について解釈したものとして最も適切なものは、次の1、4

のうちではどれか。解答番号は **13**。

- 1 積もったばかりの雪を冷たい風が舞い散らせているありさまが、冬景色の中にあるはずのない花吹雪を眺めている気持ちにさせると詠んだ歌である。
- 2 吹く風が木々に咲いた美しい雪の花をすぐに散らせてしまうのが残念なので、春を待ち遠しく思い心の中で花が咲く様子思い浮かべて詠んだ歌である。
- 3 せつかく咲いた花が風に散ってしまうのは興ざめであるが、雪の舞い散る中に花卉が風で舞い上がるさまは神秘的であると詠んだ歌である。
- 4 風が吹いて空中に積もった雪が舞い上がる様子を見ると、花は咲いたら必ず散るといふこの世の無常が連想されるという事を詠んだ歌である。

問3 二重傍線部A・Bに共通する活用形として適切なものは、次の

1～4のうちのどれか。解答番号は 14。

- 1 未然形
- 2 連用形
- 3 終止形
- 4 連体形

問4 傍線部(3)「

」の理由を説明したものととして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 15。

- 1 作者には月が出たのかどうか分からないが、風の音や鴈の声に日が暮れたことを察し、夜空一面に月や星が明るく輝いている様子を思い浮かべ心を楽しませているから。
- 2 雪が降った庭に月が照り付け、目を閉じていてもまるで昼間のように明るく輝いていることが分かるほどの美しい景色が眼前にあることに作者は感動しているから。
- 3 老いて足腰の弱った作者は、どこまでも同じように照らす月の光がひっそりと暮らす自分の小さな庭までも明るく照らしつけていることに心が癒されるから。
- 4 月が高く昇りどこまでも白く照り付けられた美しい雪原の風景を心に描き出すことが、老いて視力の衰えた作者の心を晴れやかにしてくれるから。

問5 傍線部(4)

「について説明

したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。

解答番号は 16。

- 1 「雪は都の物」と言った難波人に対して異を唱えてしまったことを思い出すにつけて、老いて頑固さが増してしまった自分を客観的に捉え嘆いているということ。
- 2 老いた身でもの寂しく過ごしていると、情趣を解する歌人仲間たちと酒宴や作歌をともにしてにぎやかに過ごした日々が自然と思い出されるということ。
- 3 他人が年を取ったことに対しては煩わしいことだなどと思う反面、自分も老いていることはつい忘れがちであると自戒しているということ。
- 4 以前はともに雪を眺めて歌を詠んだ難波人が自分の安否を気遣って歌を送ってくれていたのに、老いて返歌の気力も失せそのままになってしまったことを後悔しているということ。



四

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。(設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。)

---

(『古文真宝 後集』「新釈漢文大系」による)

問1 空欄 (1) に入る漢文を「たれかよくまどひなからん。」と読

み「誰が惑いのないことなどあり得ようか。」と解釈するとき、これを漢文に直して返り点を付したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 17。

4 3 2 1

問2 傍線部(2)「

として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 18。

1 道理を学ぶに当たって、先の世代が、学んだことを後の世代に伝えていくことが先に生まれた者の責務である。

2 自分より先に生まれたか後に生まれたかではなく、道理を知っている人を師として学ぶべきである。

3 道理を知るのに、貴賤の別はないので、先に生まれた者が師となつてあらゆる人を教え導くべきである。

4 自分より先に生まれたか後に生まれたかは、見ただけでは分からないので、全ての人を師として敬うべきである。

問3 傍線部(3)

「についての説明とし

て最も適切なものは、次の1、4のうちではどれか。解答番号は

19。

- 1 今の一般の人々は、師に従って学ぼうとしても師としての正しい在り方が世に伝わらなくなつて久しいことから、師とする人物がおらず、学問からは大きく遠ざかつてしまったということ。
- 2 古の一般の人々は、進んで師に従つて物事の道理について学んだが感い無くすことは難しかったため、今の一般の人々は、師に学んでも感いは無くならないと諦めてしまったということ。
- 3 古の知徳に優れた立派な人は、優れた素質をもっていたことに加え、師に従つて学んでいたことから、今の一般の人々は、古の立派な人物にはさらに遠く及ばなくなつてしまったということ。
- 4 今の一般の人々は、師に従つて学ぶことを恥ずかしいと思ひ師から学ぼうとしないため、古の一般の人々と比べて愚かになることもないが、賢くなることもなくなつてしまったということ。

## 特別支援教育の専門に関する問題

I 特別支援教育に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 特別支援教育に関する記述として、法令に照らして適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 学校教育法では、特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による生活上の困難について支援を行うことを主な目的とすると規定されている。
- 2 学校教育法では、特別支援学校においては、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校又は中等教育学校の要請に応じて、特別支援学級に在籍する幼児、児童等及び通級による指導を受けている幼児、児童等に限定して、必要な助言又は援助を行うよう努めるものと規定されている。
- 3 学校教育法施行規則では、特別支援学校の設備、編制その他設置に関する事項及び特別支援学級の設備編制は、第八章及び特別支援学校設置基準に定めるもののほか、別に定めると規定されている。
- 4 学校教育法施行規則では、校長は、特別支援学校に在学する児童等について個別の指導計画を作成するものとし、その作成に当たっては、当該児童等又はその保護者の意向を踏まえつつ、あらかじめ、関係機関等と当該児童等の支援に関する必要な情報の共有を図らなければならないと規定されている。

[問 2] 特別支援学校の教育課程に関する記述として、法令に照らして適切なものは、次の1～4のうちどれか。解答番号は  。

- 1 特別支援学校の小学部の教育課程は、生活、国語、算数、音楽、図画工作及び体育の各教科、特別の教科である道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動の10の教科によって編成するものとする。
- 2 特別支援学校の小学部、中学部においては、知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは、各教科、特別の教科である道徳及び自立活動の全部又は一部について合わせて授業を行うことができるが、特別活動はできない。
- 3 特別支援学校において、複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合又は教員を派遣して教育を行う場合において、特に必要がないときでも、特別の教育課程によることができる。
- 4 特別の教育課程による場合において、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用することが適当でないときは、当該学校の設置者の定めるところにより、他の適切な教科用図書を使用することができる。

[問 3] 「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議（報告）」（新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 令和3年1月）に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちどれか。解答番号は  。

- 1 副次的な籍等を活用した居住する地域の学校との交流及び共同学習が継続的に行われるためには、特別支援教育支援員を中心とした学校間や家庭等との連携強化や特別支援教育コーディネーターの活用が求められる。
- 2 特別支援学校の教師には、障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を十分把握して、これを各教科等や自立活動の指導等に反映できる幅広い知識・技能の習得や、学校内外の専門家等とも連携しながら専門的な知見を活用して指導に当たる能力が必要である。
- 3 特別支援学校は、障害のある子供やその家族が避難するための福祉避難所となることも想定されるが、その際には、個々の特別支援学校の事情に留意することなく、地方公共団体が、人材の確保や備蓄等について必要な支援を行うことを検討する必要がある。
- 4 これまで、特別支援教育においては、ICTの活用が積極的に行われてきておらず、各教科等の指導においては、ICTを使用することを目的とした授業作りから始めることが重要である。

Ⅱ 学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 特別支援学校高等部学習指導要領総則の「教育課程の実施と学習評価」に関する記述  
ア～エのうち、正しいものを選んで組合せとして適切なものは、下の 1～6 のうちのど  
れか。解答番号は  。

- ア 言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、特別活動を要としつつ各教科・科目等又は各教科等の特質に応じて、生徒の言語活動を充実することに配慮するものとする。
- イ 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実することに配慮するものとする。
- ウ 各教科・科目等又は各教科等の指導に当たっては、自立活動に基づいて行われた学習状況や結果を適切に評価し、指導目標や指導内容、指導方法の改善に努め、より効果的な指導ができるようにすることに配慮するものとする。
- エ 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学部段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫することに配慮するものとする。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 特別支援学校高等部学習指導要領の「各教科」における、次のア～エの特別支援学校において配慮する事項に関する記述として適切なものは、下の 1～4 のうちのどれか、それぞれ選び答えよ。解答番号はアが 、イが 、ウが 、エが 。

- ア 視覚障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校
- イ 聴覚障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校
- ウ 肢体不自由者である生徒に対する教育を行う特別支援学校
- エ 病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校

- 1 生徒の身体の動きや意思の表出の状態等に応じて、適切な補助具や補助的手段を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。
- 2 生徒が空間や時間の概念を活用して場の状況や活動の過程等を的確に把握できるよう配慮し、見通しをもって積極的な学習活動を展開できるようにすること。
- 3 生徒の身体活動の制限や認知の特性、学習環境等に応じて、教材・教具や入力支援機器等の補助用具を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。
- 4 生徒の興味・関心を生かして、主体的な言語活動を促すとともに、抽象的、論理的な思考力の伸長に努めること。

III 次の事例を読み、後の各問に答えよ。

生徒Aは、発達障害のある中学1年の生徒である。以下のような状況がしばしば起こる。

生徒Aの様子

- ・ 書かれた文章を読んだり、文字を書いたりすることができる。
- ・ 忘れ物や物をなくすことが多く、学習用品を整理整頓することが難しい。
- ・ 思ったことをそのまま口に出してしまい、友達とトラブルを起こすことがある。
- ・ 教室では、着席していても大きく身体を常に動かしており、姿勢が大きく崩れ、活動を継続できなくなることがある。
- ・ 国語や数学の学習では、教師の話や板書の内容を的確に捉えることが難しく、学習を進めることが困難なことがある。
- ・ 保健体育の授業が好きで興味をもって学習に取り組むことができるが、教師が説明をしている間に、活動を始めようと立ち上がって動き出したり、ゲームで勝ちたいという気持ちが先だって、ルールを守ることができなかつたりすることがある。

(「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 令和3年6月)、「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編」から作成)

[問 1] 下線部①について、生徒Aの発達障害の名称と、生徒Aに対してアセスメントのために実施するウェクスラー式知能検査との組合せとして最も適切なものは、次の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

	発達障害の名称	ウェクスラー式知能検査
1	学習障害	WAIS-IV
2	学習障害	WISC-IV
3	自閉症	WAIS-IV
4	自閉症	WPPSI-III
5	ADHD	WISC-IV
6	ADHD	WPPSI-III



[問 2] 下線部②について、次の記述ア～エのうち、生徒Aの障害の特性等に配慮した指導として正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の1～6のうちのどれか。解答番号は  。

- ア 姿勢が崩れたときは、すぐに姿勢を正すように教師が叱責する。
- イ 姿勢のチェックポイントを示したイラスト等を使い、自分で確認できるようにする。
- ウ 座面の滑りにくい椅子を準備し、姿勢が崩れにくいようにする。
- エ 崩れた姿勢のイラストにバツ印を付けて、姿勢が崩れたときに執ように繰り返し指導する。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 3] 生徒Aに対して、指導目標を「一定時間落ち着いて、学習に取り組む」と設定した。次の記述ア～エのうち、この目標を達成するために生徒Aの障害の特性等に配慮した指導として、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の1～6のうちのどれか。解答番号は  。

- ア 刺激を統制した落ち着いた環境で、必要なことに意識を向けられるようにする。
- イ 視知覚の特性で文字の判別が困難なため、文字間や行間を大きく広げて板書する。
- ウ 注目すべき箇所を色分けしたプリントを用意し、注目しやすくする。
- エ カレンダーや学級通信、お知らせなどを、黒板の周囲にできるだけ多く掲示する。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

IV 障害に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 視覚障害の視機能評価に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。

解答番号は  。

- 1 PL法は、低年齢や知的障害などで通常の検査ができないときに行う方法で、判別できる縞の幅を視角で表し視力に換算する検査である。
- 2 遠見視力検査は、3mの距離から1個ずつ提示できる遠用ランドルト単独視標を用いて視力を測る検査である。
- 3 最小可読視標の検査は、ドットカードを用いて30cmの距離から最も見やすい小さな視標を見分けることができるかを行う検査である。
- 4 近見視力検査は、50cmの距離から1個ずつ提示できる近見用ランドルト単独視標を用いて視力を測る検査である。

[問 2] 聴覚障害における言語指導に関する次の記述ア～エのうち、「聴覚障害教育の手引」言語に関する指導の充実を目指して」（文部科学省 令和2年3月）に照らして、正しいものを選んで組合せとして適切なものは、下の 1～6 のうちのどれか。解答番号は  。

- ア 生活の言語化は、食事や着替えなど日常の生活行動を通して言語を学習させる言語指導の方法である。指導者と保護者とで日々密に連絡を取り合い、指導者の指示やアドバイスによって保護者が家庭で実践する方法が一般的である。
- イ わたりの指導は、聴覚学習、発音指導、キューサイン、文字、指文字の活用などを通じて、手話の一つ一つの音を意識させる指導である。小学校段階以降に行い、日本語の読み書きにつなげていく。
- ウ 全体法は、言葉を構成している形を覚えさせ、表出できるようにすることを目的とする指導法である。それに対し、要素法は、意味や概念や経験と、言葉とを結び付けることを目的とする指導法である。言葉の学習には両者の指導法の理念が必要である。
- エ 音韻意識は、例えば、単語を音節に分解したり、単語から特定の音節を抽出したりする能力である。指文字やキューサインといった視覚的情報も音韻意識形成の有効な手掛かりとなる。仮名文字の習得は、音韻意識の形成と密接に関連している。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 3] 摂食機能に障害のある肢体不自由の児童・生徒に対する摂食指導に関する次の記述ア～エを、摂食機能の発達段階の順に並べたものとして適切なものは、下の 1～4 のうちのどれか。解答番号は 。

- ア やわらかくて形がある物をかじり取る練習をして、一口量の感覚を覚えさせながら、徐々に硬い物にして、いろいろな硬さの経験を増やす。
- イ スプーン上に、ある程度の大きさで、舌で押しつぶせるほどの硬さの食物をのせ、口唇の閉鎖を促しながら捕食させる。
- ウ 手づかみ食べを促すため、握りやすい食物を使い、口の真ん中から一口量かじり取るようにし、顔の正面から食物を取り込めるように、肘関節や手指関節を介助する。
- エ 手指で物を握ったり離したり、手に持ちやすい玩具を口に運ぶなどして口と手の協調を指導する。

- 1 ア → イ → ウ → エ
- 2 ア → イ → エ → ウ
- 3 イ → ア → ウ → エ
- 4 イ → ア → エ → ウ

[問 4] 知的障害のある児童・生徒の学習上の特性を踏まえた対応に関する記述として最も適切なものは、次の 1～4 のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 職業教育を重視し、将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能、態度及び人間性等が育つよう指導し、その際に、多様な進路や将来の生活について関わりのある指導内容を組織する。
- 2 生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際の状況下で指導するとともに、児童・生徒の失敗経験を豊富にすることで、主体的に活動に取り組む意欲を育てる。
- 3 児童・生徒の興味や関心、得意な面よりも課題や苦手な面に着目し、教材・教具、補助用具やジグ等を工夫するとともに、目的が達成しやすいように、段階的な指導を行うなどして、児童・生徒の学習活動への意欲が育つよう指導する。
- 4 児童・生徒一人一人の発達の側面に着目し、意欲や意思、情緒の不安定さなどの課題に応じるとともに、児童・生徒の発達年齢に即した指導を徹底する。

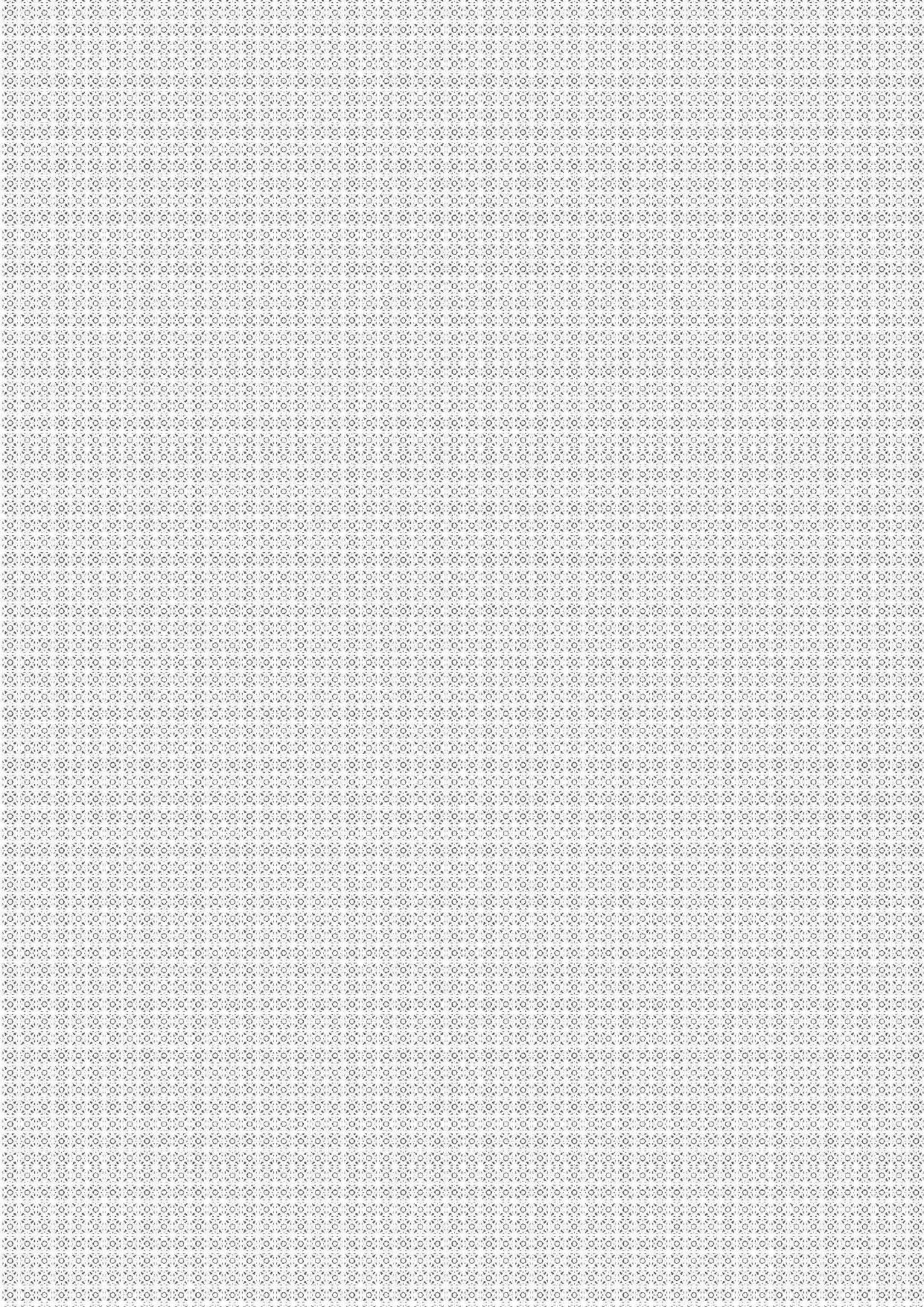
[問 5] 次の記述は、ある疾患に関するものである。この疾患の名称として適切なものは、下の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

発熱、目の充血、イチゴ舌、頸部リンパ節の腫脹、発疹、四肢の浮腫などを主要症状とする原因不明の疾患である。心臓への合併症として冠状動脈瘤が挙げられる。

- 1 川崎病
- 2 血友病
- 3 ネフローゼ症候群
- 4 ペルテス病











問題番号		解答 番号	正答	配点	備考
大問	小問				
一	問1	(ア)	1	2	
		(イ)	2	2	
	問2		3	3	
	問3		4	2	3
	問4		5	4	4
	問5		6	4	4
二	問1		7	4	3
	問2		8	2	3
	問3		9	4	4
	問4		10	1	4
	問5		11	3	4
三	問1		12	4	3
	問2		13	1	3
	問3		14	4	3
	問4		15	4	3
	問5		16	2	3
四	問1		17	3	3
	問2		18	2	3
	問3		19	3	3

問題番号		解答 番号	正答	配点	備考
大問	小問				
I	問1		20	3	3
	問2		21	4	3
	問3		22	2	3
II	問1		23	5	3
	問2	ア	24	2	1
		イ	25	4	1
		ウ	26	1	1
エ		27	3	1	
III	問1		28	5	3
	問2		29	4	3
	問3		30	2	3
IV	問1		31	1	3
	問2		32	3	3
	問3		33	4	3
	問4		34	1	3
	問5		35	1	3